坪 Tsubo Lab

2023年11月7日

各　位

会 社 名　　株式会社 坪田ラボ
代表者名　　代表取締役社長　　坪田 一男
（コード番号：4890　東証グロース市場）
問合せ先　　執行役員管理本部長　　清水 貴也
（TEL　03-6384-2866）

当社代表(CEO)坪田一男が米国眼科学会(AAO)において近視進行調節のためのバイオレットライト仮説に関して特別講演を実施

このたび当社代表（CEO)、坪田一男（慶應義塾大学名誉教授）が米国眼科学会(AAO)において、「近視進行調節のためのバイオレットライト仮説」と題したNamed Lecture(特別講演)を行いました。米国眼科学会においてNamed Lectureは毎年､選ばれた専門家のみが講演するもので､今回は屈折のセッションで坪田が講演しました。

タイトル：Whitney G. Sampson Lecture: Violet Light Hypothesis for the Control of Myopia Progression （シンポジウム33 Current Approaches to Myopia Control 内）
演　　者：坪田一男
日　　時：11月5日（日）午前8:50-9:10
U　R　L：https://www.aao.org/eyenet/academy-live/detail/2023-named-lectures-sunday

この講演において坪田は、近視がアジアにおける失明の主な原因になっていること、近視の有病率は世界的に増加しており、その原因として、子供たちが屋内で過ごす時間が多いためであるという疫学研究などの研究背景を説明し、さらに坪田らのチームが発見した、屋内には存在しない360～400nmの特定の波長の太陽光（バイオレットライト）が、非視覚性視細胞OPN5を介して近視予防に不可欠であること、このバイオレットライトが近視調整に働くメカニズム、この発見から発展した研究、臨床応用の可能性について紹介いたしました。

講演を終えて、坪田一男は

「米国眼科学会での特別講演は名誉なことであり､私の業績の中でも､近視進行に関わるバイオレットライト仮説をこの場で紹介できたことは、非常に光栄であります。アメリカだけでなく、世界中からKey Opinion Leaderが集まるこの会で、バイオレットライト仮説が大きな関心を持って受け入れられたことも、とても嬉しく思っております。」とコメントしています。

当社では、このバイオレットライト仮説に基づき、TLG-001（近視進行抑制バイオレットライト眼鏡）を開発、検証的臨床試験の被験者組み入れ(目標症例数 160 名)を完了しており(10月30日開示済)、医療機器としての開発を進めております。

以上